

チーム

東中学校
女子バレーボール部通信
NO. 180号
9月12日(木)

原因追究

『勝ちに不思議の勝ちあり。
負けに不思議の負けなし。』

様々な場面でいろいろな人が使っている言葉なので、すでに聞いたことがある人もいるかと思いますが。この言葉は、江戸時代のある剣術家を書いた本の中に出てくる言葉だそうです。この本には続けて、



『負けたときは、明らかに理由・敗因がある。負けるべくして負けている。準備は十分だったか、技術的なミスはなかったのか、戦術は間違っていなかったかなど、チェックすべきことは山ほど出てくる。なぜ負けたのか。どこに問題があったのか、それを必死に考えることこそが、次に勝つことにつながる。』

と書いてありました。

スポーツの世界でも同じことが言えると思います。みんなの試合を見ていても、相手が勝手に崩れたり、思いもよらない形で得点したりして、勝つことはありますが、負けるときには必ず“原因”があります。大切なのは、(負けた後)その原因をしっかりと追究し、練習の中で解決していこうという意識をもって練習しているかということです。今日の朝練の様子からは、誰一人、そういった気持ちは伝わってきませんでした。新人戦までちょうど1ヶ月あまりとなりました。気づき行動に移していくならば、今しかありません。



【“時間の使い方”を！】

明日から『フェスティバル週間』ということで、授業後はクラスでの活動も増えてきます。

「部活に行きたい！」という気持ちもあるかもしれませんが、学校生活があってこそその部活動です。まずは、クラスの一員としてしっかりと自分の役割を果たしましょう。

「フェスティバル週間だから特別に・・・」という訳ではありませんが、この機会に“時間の使い方”について考えよう。例えば1時間練習をするとしても、どういった姿勢で、どんなことを目的として取り組むかで、練習の質・成果は変わってきます。これから下校時刻も早くなり、練習時間はどんどん少なくなっていくと思います。地区や学校によっては、下校時刻が遅かったり、クラブ化して活動したりしている地区・学校もあります。もちろん練習時間がたくさんあるにこしたことはありませんが、先生は量よりも質にこだわっていきたいと思います。

